

「卒業の言葉」

冬の厳しい寒さも和らぎ始め、穏やかな春の日差しを感じることでできる季節となりました。本日は私たち、卒業生のためにこのような晴れやかな卒業式を挙げていただきありがとうございます。また、お忙しい中ご臨席くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

今から三年前、この体育館で入学式を行った時のことを今でもよく覚えています。慣れない満員電車に乗り、新たな高校生活へ思いを馳せました。高校からの入学だった私は、一体富士にはどんな人がいるのだろう、新たな環境に馴染めないのではないか、と、不安ばかりを胸に抱えていました。それから富士高で三年間を過ごす中で、分かったことは、「富士高生は周りを気遣ってくれる優しい人ばかり」だということでした。中入生、高入生関係なく、あらゆる場面で、周囲を助けてくれる人で溢れています。一年生の時、私は、特に部活動で悩むことが多くありました。そんな私が退部をすることなく、引退までやり切ることができたのは、いつも部を引っ張ってってくれ、辛い時には話を聞いてくれる部員の存在があったからです。そんな風に周りを支え、気遣ってくれる多くの人たちと出会えたことで、入学前にあった不安な気持ちは、いつしか私の中からすっかり消え、この学校が「安心できる場所」になっていました。学校一体で行う文化祭や合唱祭は1年生で行った、たった一回きりでしたが、それぞれ思い出に残る大切な瞬間がたくさんあると思います。クラスや学年が一丸となって、準備や練習に全力で取り組んだことは、私の中でとても印象深く残っています。

私たちが二年生に進級する直前、新型コロナウイルスが国内で蔓延し始め、休校の処置がとられました。クラスメイトに会うこともできず、一人で取り組む学習の進度も不安で、私たちにとって最も心細い日々でした。徐々に登校できるようになってからは、友達や先生に会って話ができるだけで嬉しく感じるほどでした。しかしその後も、コロナ収束の兆しは一向に見えず、学校行事は立て続けに中止となっていきました。修学旅行は実行委員や先生方が最後まで諦めず、実施の可能性を考えてくださったものの、中止となりました。それに加えて登校日数自体も少なくなり、クラスや学年で過ごせる時間が限られたものだったことは、自分たちの力ではどうにもできないことだったからこそ、悔しさが残りました。そんな中、実行委員の人たちのおかげで、富士校初の「富士レク」が開催されました。感染対策を考慮しながらの開催で、制限も多くありましたが、とても活気のある一日となり、コロナ禍の中でも、私たちに貴重な思い出を残してくれました。思えば、私たちの学年は、困難な日々を共に乗り越えることでより一層チームワークを強くしていく、そんなことの連続だったように思います。

そしていよいよ三年生となり、私たちも大学受験を意識するようになりました。受験勉強の中、成績が伸び悩んでしまうと、言いようのない恐怖心に襲われることもありました。そんな時、担任の先生をはじめ、多くの先生方が相談に乗ってくださったことで、張り詰めていた緊張や不安が、少しずつほぐれていきました。そして、周りを見れば、朝早くから遅い時間まで塾や学校で勉強に取り組む同級生の姿があり、そんな姿を見て自分を奮い立たせることもできました。受験勉強という孤独な戦いの中でも、私たちはいつも先生方や友人の存在に支えられていました。

高校生活最後の行事となった体育祭は、何度か延期を重ね、中止になってしまう可能性もあり、とても心配でしたが、この学年で、最後に大きな行事を経験することができました。バトンが無事に最後までつなげたこと、声を掛け合って応援できたこと、一瞬一瞬ですが、その一つ一つがとても大切な思い出です。

振り返れば、あっという間の3年間でした。たぶんここにいる誰にとっても、入学前には想像していな

かったことばかりの日々だったと思います。悔しいことや心残りもたくさんありましたが、それも含めて、この三年間は私たちにとって決して忘れることのできない、特別な時間になりました。

在校生の皆さん、先程は心温まる祝辞をありがとうございました。きっと皆さんにとっても悔しさの残る年が続いていることと思います。今後も新型コロナウイルスの動向が予測できず、思い通りにいかない日々が続いてしまうかもしれません。ですが、皆さんの周りには陰で支えてくださっているたくさんの方々がいることをどうか忘れないでください。そして限りある高校生活を悔いの残らないように、思い出深い時間を送ってください。

これまで私たちの成長を見届けてくださいました地域の皆様、職員の皆様、ありがとうございました。いつも校内をきれいに清掃してくださる主事さんや、学校を裏で支えてくださる教職員の方々、そして、どんな時も生徒を温かく見守ってくださった地域の方々がいってくださったからこそ、私たちは3年間毎日、安心して登校することができました。

そして、私たちを陰ながら支えてくださり、いつも見守ってくださった先生方、本当にありがとうございました。私は富士高校を受験し、面接試験を受けたとき、試験官の先生に「焦らなくても大丈夫だよ。減点になったりしないから。」

と言われたことを今でも覚えています。私は、この時から富士校の先生の優しさや温かさに助けられていました。授業も部活動も日々全力で、ご多忙な中でも丁寧に話を聞いてくださった先生、くだらないマジックや面白いプライベートな話で私たちを笑顔にしてくださった先生、受験前に一对一で話す時間を設けてくださった先生、お母さんのような存在で熱い指導をしてくださった先生、三年間本当にありがとうございました。富士の先生方からは、いつも大切なことを教えていただきました。個性的な先生方の楽しい授業や、何気なく掛けてもらった言葉は、卒業した後も決して忘れません。

そして、どんな時も、何があっても、私たちを十八年間支え続けてくださった保護者、家族の皆様、今まで本当にありがとうございました。どんなに忙しい時も変わらずお弁当を作り続けてくれたこと、身体を気遣ってくれたこと、受験を応援してくれたこと、きっと自分だって辛い時があったのにそんなことは口に出さず、私の話をいつまでも聞いてくれたこと。当たり前だと思っていたことが当たり前ではないということに今になって気付きました。どんな言葉にしていいか分からないくらい、感謝しています。これからも迷惑をかけてしまうことがあるかもしれませんが、でも、少しでも今までの恩返しができるよう、これまで以上に頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

そして、共に三年間を過ごし、今日、卒業を迎えるみなさん、とても短い時間でしたが本当に、本当に、ありがとうございました。一番近くで話を聞いてくれて、頼らせてくれて、安心できる空間を作ってくれて、いつでも周りの人たちを思って行動する皆さんと共に三年間を送ることができて、幸せでした。四月からは、こうして学校で当たり前に出会うことも話すこともできなくなってしまうということが、まだ信じられません。できることならもっと一緒に高校生活を送りたいと思っています。でも、私たちはそれぞれの道に進まなければなりません。離れ離れになることは不安だし寂しいけれど、この富士で過ごした日々の思い出が、きっとこれからも私たちを勇気づけてくれるはずです。

私にとって富士校は大好きな学校です。

富士で出会った人たちは、大好きな人たちです。そして、富士で過ごした3年間は私の心の中で何にも替え難い大切な時間です。

3年間、温かくて、尊くて、とても素敵な時間を本当にありがとうございました。

結びに、改めて本日ご臨席いただいた皆様に感謝を申し上げ、皆様の益々のご活躍とご多幸をお祈りすると共に、富士高等学校の一層の発展を祈念いたしまして、卒業の言葉とさせていただきます。

令和四年 三月四日

卒業生代表 片岡 里実